

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 25 章 1～13 節>  
イエス様がなさった終末についての話(24～25 章)。ここで大事なことは何か？

① これまでのおさらい：終末をイエス様が到来された時から考える！

終末というと多くの人は世界の終りのことを考えます。24 章の前半(3-28 節)のイエス様の話もそのように思えました。しかし、戦争・地震・飢饉が起り、偽預言者が現れる(4-9)、福音が全世界に宣べ伝えられてから終わりが来る(14)と言われていることは、よく考えると、イエス様到来以来、今の時代も当てはまることです。よって、初代教会以来、教会は、「終末はすでに開始しており、その完成がいずれ来るもの。よって、信仰者はむやみ心配する必要なく、『最後まで耐え忍ぶ者は救われる』(24:13)と言われていることこそ、真剣に考える生き方をしていけばいいのだ」と教えて来たのです。そこで問題なのは、その「真剣な生き方、すなわち、愚かでない本当の賢い生き方」はどういうものかです。

② 「目を覚まし」「準備をし」「怠惰でなく」。しかし、具体的な内容は？

24 章 36 節以下で、この終末における私たちのあるべき姿についてイエス様が話された例え話が 4 つ記されています。例え話は、そこから何を聞き取るかが大事です。すると、繰り返し出て来る 3 つの表現が浮かび上がります。「目を覚ましていなさい」(24:42, 25:13)、「十分に準備をして待つ」(24:44, 25:3-4)、「神様から与えられた務めに怠りなく」(24:45-51, 25:1-30)。しかし、これらはまだ抽象的な私たちの態度のあり方についての教えであって、その生き方の具体的な内容については出て来ません。それが出て来るのは 25 章 31 節以下の最後の例えです。一気に見ることにします。マザーテレサも注目した大事な内容です。

③ 神様は最も小さい者の内に居給う。このことを知らされて本当に賢く生きる！

「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(25:40)。なぜ飢え、渴いたのか、旅に出たのか、裸になったのか、病気になったのか、牢に入れられたのか(25:35-36)、その理由を問わずにその人に手を差し伸べる生き方を、聖書の神様は求めておられます。私たちにそれができるかどうかを考える前に、私たち自身がその最も小さい者であること、すなわち、どうしようもなかった自分を神様が救い上げて下さったことを思うことが大事です。そうするなら、私たちの心の中に感謝と喜びの思いが広がるはずで、あとはイエス様を見上げて出来るだけ生きていければいいのです。その時、永遠の罰のこと(46)はもう考なくなっているはずで、